

しっていますか？ シックスクール

ダイジェスト身近な化学物質その1

小樽 子どもの環境を考える親の会

アレルギーや化学物質に苦しむ子の親
環境のことに興味のある方の会です。

連絡先 0134(25)1182 or(27)5100

e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp

* 会報購読会員を募集しています。

毎月1回郵送します。1100円/年

～電話・メールでの相談も受付中！～



～おかあさんからあかちゃんへ～

私たち大人の血液中には、500種類もの化学物質が検出されると言われています。



妊娠中に、母親が分解できなかった化学物質は、胎盤を通りぬけて赤ちゃんへいきます。子どもの呼吸量は体重1kgあたりで比較すると、大人の2倍。子どもは大人より大気中から多くの化学物質を摂取しています。成長期の子どもにとって、この時期に受ける化学物質の影響は、その作用や強さなどが大人と異なることも考えられますが、ほとんど解明されていません。

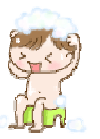
家庭用洗剤

女性が妊娠中に頻繁に使用した家庭用洗剤が原因で、子どもが気管支炎を患う確立が2倍に増えるという研究結果がでました。対象とされた洗剤は、漂白剤、カーペットクリーナー、ドライクリーニング液、殺菌剤、窓クリーナー、塗料除去液、芳香剤(消臭剤)、エアロゾルなど。



合成洗剤と柔軟剤

合成洗剤は、成分によっては容易に皮膚を透過したり、細胞を破壊したりします。そのため皮膚疾患、アレルギーやガンを誘発する可能性があります。合成洗剤の分解時間は、純せっけんの10倍もかかります。分解速度が遅ければ遅いほど、毎日の洗濯で衣類に残ることになり、皮膚から吸収されたり、刺激を受けたりすることになります。



有害物質の毒性は、皮膚からの吸収が2番目に強いので、(一番は呼吸器から)シャンプーや入浴、手洗い、はみがき剤の合成洗剤はやめましょう。また、薬用石鹸は大事な菌も殺してしまうので子どもには使わせないこと！

柔軟剤は、陽イオン界面活性剤が主成分。界面活性剤の中で一番毒性が強く、環境に流れると微生物を死滅させます。さらに、衣類の吸水性が悪くなり、皮膚炎、過敏症の悪化につながります。(純せっけんで洗えばごわごわはしない)

ワックス

合成界面活性剤、トルエン・キシレンなどが含まれているほか、農薬の成分である有機リン酸エステル類 TBXP、トリメチルベンゼン、プチルベンゼン、デカン、エチルトルエン、キシレン等も含まれています。米国の研究では神経毒性・環境ホルモン作用などの毒性が明らかになりつつあります。

木製ベッド(家具)



国民生活センターによせられたニオイや化学物質の相談で体調不良に至るケースが最も多かったのが木製ベッドだそうです。接着剤や塗料に含まれる「ホルムアルデヒド」が原因とみられ、被害症状は「頭痛」「吐き気」「咳」「目がチカチカ」などシックハウスの症状でした。そこで同センターは市販の木製ベッド(通販含む)7製品(1台5万円以下)の商品テストを実施。結果、JIS規格に適さないほどホルムアルデヒドの放散量の多いものや基準値の7倍のものなどがありました。さらに、ホルムアルデヒドが低くても不快なニオイが強かったものには「塩ビ」が使われていることがわかりました。検査した約半数のベッドが基準値を超え、換気をして1時間後には再び換気前の70%にまで戻っていたといえます。通販で購入する際には十分な注意が必要です。

芳香剤

トイレや室内、車の中などに使われる芳香剤の成分は、車の排気ガスと同じ成分で、室内の汚染は野外の数倍から数100倍にもなります。CMでは、まるで空気がきれいになったかのように放送していますが、実は驚くほど汚染されているのです。

芳香剤で具合が悪くなる人が、後をたちません。公立学校では、使用禁止になっています。

家庭から見直そう！



家の中の農薬

農薬に含まれている有機リンは、農業用だけでなく様々な生活の場で使われています。

例えば、家庭用殺虫剤・衣料用防虫剤・ペット用ノミとり剤・除草剤・シロアリ防除剤・畳に使われる防虫剤など。家以外でも、公共施設・ビル・空港・バスなどの乗り物内・飲食店・ホテル・住宅の庭などで使用されています。

衣類の防虫剤のパラジクロロベンゼンは、有機塩素化合物。肝臓、腎臓への影響、目、鼻、喉に痛みや不快症状、頭痛めまい、アレルギー、発ガン性があります。無臭防虫剤の「ゴン」には、エムペントリン(ピレスロイド)のほかに防カビ剤が使われ、「ミセスロイド」、「ムシューダ」にはピレスロイドが使われています。有機塩素系殺虫剤やピレスロイド系殺虫剤は、正常な神経興奮とは関係なく、神経細胞を常に興奮状態にさせてしまい、その結果、神経細胞は正常な動きができなくなります。キンチョールなどのスプレー殺虫剤、蚊取り線香、電気蚊取りなどはピレスロイド系農薬が主成分。咳や呼吸困難、喘息、吐き気、下痢、頭痛、さらには、遺伝子に障害をもたらします。



吊るす殺虫剤

吊るしておくだけで薬剤が揮発して虫を殺す蒸散性防虫剤「パナプレート」は、合成樹脂板に有機リン系殺虫成分(ジクロルボス)を練り込んで、殺虫成分を徐々に蒸散させるようにしたものです。08年にこれが原因で目が見えなくなるという事故が起きています。有機リン系殺虫成分は、急性、慢性の神経毒性が確認されています。

虫よけスプレー

手軽に買える虫除け剤の主成分はディート。重度の神経障害や皮膚炎などを起こすことが知られています。更にディートは、うっかり他の薬品や抗ヒスタミン剤と併用すると有害な副作用を引き起こします。子どもの皮膚は化学物質を吸収しやすく、発達途上の脳神経に微妙な影響を受ける危険性が高いので、虫よけスプレーは、乳幼児に使ってはならないし、子どもへの使用も注意が必要です。